

■平成30年度

消防本部

組織目標管理シート

| No. | 課室 所名 | 目標項目 | 難易度 (ABC) | 目標の内容 | | | | 目標に対する活動(上半期レビュー) | | 目標達成の状況(output・input) | | 成果分析[outcome] | |
|---------|----------|-----------------------------|--------------|--|---|---------|--|---|---|--|--|--|--|
| | | | | 目標指標の内容 | 目標の基準値 | 目標達成時期 | 目標値 | 目標達成のための具体的方法 | 【現状】 | 【ギャップと対策】 | ①達成値・実績値 | ②取組・行動内容 | ③目標達成による成果 |
| | | | | (何を) | (目標設定時の状態・比較実績) | (いつまでに) | (どの水準までどうする・達成後の状態) | (具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など) | 上期(4月～9月)の取組実績(具体的活動・行動) | 下期(10月～3月)に向けた課題と取組の予定(具体的活動・行動) | (目標の達成状況・現在の状態) | (目標達成のために行った取組・行動) | (目標の達成による効果、目標達成できなかった事由) |
| 業務改善取組① | 総務課 | 消防職員としての自覚保持と服務規律の指導 | B | コンプライアンスの保持 | 不祥事案なし | 通年 | ・全職員「プロの公務員」としての責任感と誇りを持つ | ・他自治体の事例などを定期的に発信し、公務員として求められる服務規律等の意識付けを励行する。 | ・不祥事案0件 ○全職員に周知啓発 ・消防職員としての自覚保持と服務規律の遵守について(他自治体等の不祥事について) ・交通事故防止について ・ハラスメント防止について | ・引き続き不祥事事例を定期的に発信し、職員に求められる服務規律の意識付けの励行を図る | ・不祥事案 0件 | ・他自治体の不祥事事例などを庁内イントラネットでも発信し、公務員として求められる服務規律等の意識付けを行った(7月、1月、2月) ・安全衛生委員会でハラスメント防止の方針、マニュアルについて周知を図った(2月) | ・消防職員としての自覚保持と服務規律の維持 |
| 重点取組① | 総務課 | 確実な分署統合事業の推進 | A | ①南分署(仮称)整備事業の完了 ②西分署(仮称)建設に向けた事業開始 | ①造成工事等完了 ②建設に向けた手続き完了 | 年度末まで | ①本体工事、機械工事、電気工事、外構工事の完了及び通信指令システムの移設 ②建設用地購入、造成工事、水道管工事、建築物実施設計の実施 | ①本体工事他の発注(6月末)、指令システム移設工事発注(11月中) ②建設用地購入(5月初旬)、建物実施設計発注(5月中旬)、造成工事発注(7月末)、水道管工事発注(9月中) | ① 建築本体工事(6月発注済) ・機械設備工事(5月発注済) ・外構工事(10月中) ・電気設備工事(5月発注済) ② 用地取得(4月取得済) ・造成工事(7月発注済) ・水道管工事(7月発注済) ・実施設計(5月発注済) | ① 市関係部局及び発注業者との協議検討、打ち合わせの実施 ・外構工事(10月中) ・通信指令システム移設工事(10月中) ② 市関係部局及び発注業者との協議検討、打ち合わせの実施 ・来年度建設工事予算の計上 | ① 建築本体工事(2月完成) ・機械設備工事(3月完成) ・電気設備工事(2月完成) ・外構工事(3月完成) ・通信指令システム移設(3月22日) ② 用地取得(4月取得) ・造成工事(3月完成) ・水道管工事(12月完成) ・実施設計(1月完了) | ① 市関係部局及び発注業者との協議検討、打ち合わせの実施 ② 土地所有者、市関係部局及び発注業者との協議検討、打ち合わせの実施 | ① 平成31年3月22日から南分署の業務を開始 ・防災拠点施設としての強化と機動的な出動体制を整備 ② 平成31年度の建築本体工事に向けた準備が完了 |
| 重点取組② | 総務課 | 消防団組織改革の推進 | A | ①消防団統合に向けた組織改革 ②第2次消防団改革計画の作成 | ①消防団組織の検討委員会にて統合時期の方針決定 ②第2次消防団改革計画(案)の作成 | 年度末まで | ①消防団統合に向けた各種手続きなど事務処理の完了 ②大雄消防団より提出された組織検討結果について協議検討し、第2次消防団改革計画の作成 | ①関係部局との協議調整 ・政策会議(4月中旬) ・財政課、地域局、消防団等(随時) ・条例改正(12月議会) ②関係部局との協議調整 ・消防団、地域局等との最終協議(4月中) ・政策会議(5月中) ・財政課、地域局、消防団等(随時) | ①関係部局との協議調整 ・政策会議にて平成31年4月1日の統合を決定(4月) ・政策会議にて条例、規則等の改正案了承(9月) ・議会、財政課、地域局、消防団理事会へ協議・報告 ②関係部局との協議調整 ・消防団、地域局等との最終協議 ・財政課、地域局、消防団等との協議 | ①関係部局との協議調整 ・条例改正案を12月議会に上程 ②関係部局との協議調整 ・政策会議(10月) ・消防団組織の検討委員会での協議・検討予定(9月) ③関係部局との協議調整 ・消防団、地域局等との最終協議 | ①関係部局との協議調整 ・政策会議(4月、9月) ・条例改正案を12月議会にて議決 ②関係部局との協議調整 ・政策会議(10月) ・消防団組織の検討委員会での協議・検討(3月) | ① 平成31年4月1日から市内全域の消防団を統合したを新「横手市消防団」が運用開始 ・指揮命令系統の明確化や地域を超えた活動による消防団の対応能力向上 ② 第2次消防団改革計画に基づき大雄消防団のポンプ小屋、軽積載車などを平成31年度、32年度の2か年で整備することが決定 ・消防団施設、装備の充実強化 | |
| 重点取組③ | 総務課 | 消防団活動に対する市民意識の向上 | B | ①消防団協力事業所の拡充 ②消防団応援の店の啓発 | ※H30.3.31現在 ①消防団協力事業所 59事業所 ②消防団応援の店 4店舗 | 年度末まで | ①消防団協力事業所 62事業所 ②消防団応援の店 15店舗 | ①各事業所へ案内文を送付するなど事業内容を啓発し、参加を募る。 ②市報やホームページ等を活用し、市内一円の店舗、飲食店等に本事業内容を啓発し、参加を募る。 | ①消防団協力事業所 58事業所 ②消防団応援の店 6店舗(2店舗増) | ①各事業所へ案内文を送付するなど事業内容を積極的に啓発 ②市報やホームページ等を活用し、市内一円の店舗、飲食店等に本事業内容を積極的に啓発 | ①消防団協力事業所 59事業所 増減0(3増、3減) ②消防団応援の店 7店舗(3店舗増) | ①各事業所へ案内文を送付するなど事業内容を積極的に啓発 ②市報やホームページ等を活用し、市内一円の店舗、飲食店等に本事業内容を積極的に啓発 | ①② 現状の啓発方法に加え、各種消防業務の中で制度を紹介するなど、様々な機会を活用した働きかけを行っていく必要がある |
| 業務改善取組④ | 予防課 | 事務業務の迅速化と共通認識を図る | B | 事務作業を課内で連携を図りながら実施する | 事務処理遅延の解消(平成29年度事務処理ミス0件) | 通年 | ・課員の事務処理経過が把握できる環境にする | ・各担当業務内容、課題、回答等を毎日記載し、課員が情報を共有する | ・4月から予防課日報の作成を実施し、現在までに事務処理のミス0件 | ・報告書類の期日確認の徹底(報告に余裕を持って対応) | 事務処理ミス0件達成 | 予防課日報の記載と申し送りの徹底 | 課員の担当業務と進捗状況の把握ができ事務処理ミスを出さなかった |
| 重点取組① | 予防課 | 予防事務の作業配分 | B | 本署、分署へ予防事務業務を分担させ、予防担当の事務処理のレベルアップと予防課の負担軽減を図る | (平成29年1月～12月検査案件数) 消防設備検査 153件 危険物検査 40件 その他 87件 | 通年 | ・予防検査事務を管轄する各署で実施させる 各署単独検査40%→50%とする ・予防担当者の検査レベルの均 ・統合予定分署、ブロック内の連携で検査実施率向上 | 検査種別、建物規模等を考慮し各署単独検査又は予防課合同検査を決定 ・5月末までに検査手順及び検査注意項目の勉強会実施 | ・事務作業配分準備が完了(資料の配布と実施手順の説明) ・消防設備検査の分署単独53% | ・分配化した予防事務(消防同意)書類の審査期日を短縮(審査日数を3日間とする) | 消防設備や危険物施設の管轄署の単独検査53%と目標を上回る | 検査方法の資料を基に各署所で勉強会(予防担当係上席者の指導) | ・予防課員の検査負担が軽減 ・業者の検査希望日程約の完全実施 |
| 重点取組② | 予防課 | 防火対象物等への防火管理指導及び担当職員のレベルアップ | A | 重大違反のある防火対象物の違反是正 | (平成29年度末) 特定防火対象物 30件 | 年度末まで | 特定防火対象物の重大違反件数30件→15件とする ・利用者の安全安心が保てる | 重大違反の防火対象物へは、違反処理に向けた取組で立入検査の実施を行う ・年間調査計画に基づき立入検査を実施 ・北上地区消防で開催される違反是正講習会への参加(5月24日) | ・積極的に重大違反是正への取り組みを行った(9月末までに特定防火対象物が重大違反が20件まで減少) | ・重大違反の是正に向け違反処理の実施に取り組み(火災予防週間中) ・違反防火対象物の公表制度にむけた条例改正(12月定例会に上程) | ・重大違反の特定防火対象物件数16件是正 ・公表制度の条例改正12月議会にて承認 | ・火災予防週間中に違反調査実施(警告・命令に向けての調査) | 重大違反の特定防火対象物が違反改善し違反防火対象物が14施設まで減少。 (14施設中6施設が具体的な改善の意思を示している) |

■平成30年度

消防本部

組織目標管理シート

| No. | 課室 所名 | 目標項目 | 難易度 (ABC) | 目標の内容 | | | | 目標に対する活動(上半期レビュー) | | 目標達成の状況【output・input】 | | 成果分析【outcome】 | |
|---------|----------|---------------|--------------|--|--|---------|--|--|--|---|--|--|---|
| | | | | 目標指標の内容 | 目標の基準値 | 目標達成時期 | 目標値 | 目標達成のための具体的方法 | 【現状】 | 【ギャップと対策】 | ①達成値・実績値 | ②取組・行動内容 | ③目標達成による成果 |
| | | | | (何を) | (目標設定時の状態・比較実績) | (いつまでに) | (どの水準までどうする・達成後の状態) | (具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など) | 上期(4月～9月)の取組実績(具体的活動・行動) | 下期(10月～3月)に向けた課題と取組の予定(具体的活動・行動) | (目標の達成状況・現在の状態) | (目標達成のために行った取組・行動) | (目標の達成による効果、目標達成できなかった事由) |
| 重点取組③ | 予防課 | 一般住宅の防火推進 | A | 住宅用火災警報器の設置率向上と維持管理指導 | 平成29年度住宅用火災警報器設置調査 34,376世帯の内 29,318世帯調査完了(85.3%) ※世帯訪問100% 設置率72%(H29年標準調査結果) | 年度末まで | 5,058世帯調査(100%)の実施 横手市全世帯の調査を完了させる ・住宅用火災警報器の未実施地区が特定でき設置率向上の対策、維持管理指導に移れる | 住宅用火災警報器設置調査を勤務内で継続調査する ・住宅用火災警報器設置調査の継続調査を実施。 (世帯調査完了(86.6%)) | ・住宅用火災警報器設置調査の継続調査を実施。 ・調査を継続し完了見込み ・未設置世帯への設置指導継続 | ・住宅用火災警報器設置調査全世帯への調査完了 | ・未実施地区へ各署から応援を求め調査完了させた | ・全世帯調査したことにより未設置世帯を割り出せたため未設置世帯へピンポイントで設置指導が可能 | |
| 業務改善取組① | 警防課 | 警防業務体制の整備と遂行 | B | 消防施設整備事業の確実な推進 | 課員の半数以上が新任者であり、特に事務業務が遅れがちで不慣れである。 | 通年 | ①担当係内、共通認識の上での業務 ②計画業務の迅速確実な遂行 | ①前任者からの情報なども含め、全員で業務にあたる。係内ミーティングは毎朝行い、共通認識を持つ。 ②年間にわたる業務工程表を作成し、事前準備も含め後回しする事なく早期に業務着手する。 | ・毎朝の係内ミーティングを実施、業務の進捗状況などの共通認識 ・年間業務工程表をもとに、計画や業務早期着手 | ・引き続き、取組を継続する ・課職員の業務割合を適切に判断し、公平な業務分担として行ける課題である | ・今年度予定事業の完全実施 | ・年間業務工程表を基に、重要事業は後回しする事がない様業務に取り組んだ。 | ・一部ではあるが、消防署・消防団ともに資機材等の更新が図られ、装備の充実となった。 |
| 重点取組① | 警防課 | 災害現場対応能力の向上 | A | ①災害発生時における市民や市各部署との連携 ②災害現場や訓練現場における安全管理 ③指揮隊のスキルアップ ④機関員養成 | H29年度実績 ①市防災訓練1回、地域局防災訓練各1回 ②公務災害 0件 ③指揮隊運用訓練8回、参加者46人 ④機関員養成訓練修了者34人 | 年度末まで | ①市防災訓練の実施、地域局防災訓練等各1回以上実施 ②公務災害 0件 ③指揮隊運用訓練8回、参加者30人以上 ④機関員養成訓練修了者30人以上 | ①防災訓練実施時、危機管理課と連携して市関係部署の参加の広く促し、大規模災害発生時の協力体制を確立する。 ②各ミーティングやヒヤリハットを多用し、事故ゼロの共通認識もとで活動する。 ③各署の当直長クラスを中心に訓練を実施する。 ④機関員養成講習実施要綱に基づき実施する。 | ①各関係団体、住民と連携した市防災訓練を実施。各地域防災訓練を各1回実施した ②公務災害は2件発生 ③指揮隊運用訓練は、当初より下半期実施予定で現在計画中 ④今年度の機関員養成予定者数36名。うち7名が認定済み | ①市防災担当部署(特に危機管理課)との連携は強みであり、さらに向上を目指す ②事案を検証し、同じ事故が2度と発生しないよう周知徹底、安全管理教育を実施して行く ③現場で公務災害を発生させない指揮隊員の養成を目標とする ④適切な講習に基づいた養成を継続し、36名全員の認定を目標とする。 | ①防災訓練は各地区1回以上10回実施 ②公務災害は3件発生 ③指揮隊運用訓練を8回実施し36名参加 ④機関員養成35名認定 | ①市防災担当部署と市民との連携が強化された。 ②注意喚起の文書配布やヒヤリハット対策会議、各種実技訓練を実施した。 ③より現場に近づけた訓練計画と実施した。 ④養成は継続的な課題であるので、継続していく。 | ①危機管理体制の確立に役立った。 ②県内外で消防職員の殉職事故があり、この対策は最重要課題ととらえ強化していく。 ③前項②にも関連しており、さらに充実させた訓練を継続していく。 ④養成は継続的な課題であるので、継続していく。 |
| 重点取組② | 警防課 | 警防計画の策定 | A | 重点地域の地域警防計画の作成 | 策定中 | 上半期まで | 無水利地区、木造密集地域その他、伝統的建造物群も重点地域として警防計画を作成する。 | 消防本部、署、消防団、地域局を含めた市担当部局との連携にて作成し、各部局に周知の上で有事に備える。 | ・市部局で消防水増設計画(一部工事中)が同時に進行しており、調整作業が必要になったものであり、年内完成とする | ・伝統的建造物群、木造密集地域、無水利地区の警防計画は策定済みである。 | ・関係する部局との調整を図り、調査し情報の共有した。 | ・重点地域の警防計画を作成した。 | |
| 重点取組③ | 警防課 | 消防団との連携 | B | ①消防団合同訓練 ②消防団員研修会 | ①消防団合同訓練6回 ②消防団員研修会2回 | 年度末まで | ①消防団合同訓練8回以上 ②消防団員研修会2回以上 | ①地区防災訓練等で指揮隊との合同訓練を実施する。 ②新入団員やポンプ機関員を対象とした研修会を実施する。(10月～11月頃実施予定) | ①各地区で1回、計8回の合同訓練を実施 ②11月に2回実施予定で計画中 | ①下半期も2回以上計画中であるが、指揮隊の活動周知を目標に実施していく | ①8回、②2回の訓練を実施した。 | ・担当地域局と連携しての訓練計画立案、実施とした。 | ・消防団との連携が図られた。 |
| 重点取組④ | 警防課(救急) | 多様化する救急現場への対応 | B | 救急隊員の資質向上 | H29年度実績 ①指導的立場の救命士巡回指導19回 ②新任救命士合同訓練2回 | 年度末まで | ①指導的立場の救命士巡回指導20回 ②新任救命士合同訓練及びブロック訓練、合計8回 | 訓練計画を見直し、スケジュールに沿った訓練を通年実施する ①上半期6回、下半期14回予定 ②上半期3回、下半期5回予定 | ①9月まで9回実施済み ②ブロック訓練を東、南ブロックで各2回、西ブロックで1回実施済み | ①10月に2回実施済み。目標達成まで上期同様実施する ②新任救命士合同訓練を2回実施することで決定している ・ブロック訓練は、予定通り実施するよう計画済 | ①指導的立場の救命士巡回指導22回実施 ②新任救命士合同訓練2回実施 ③ブロック訓練6回実施 | ・現場シミュレーション、合同訓練のフィードバック、心肺蘇生法の手技確認等実施 ・新任救命士合同訓練10月22日、11月19日 ・ブロック訓練東地区-7月20日、7月23日南地区-8月2日、8月3日西地区-8月22日、11月22日 | ・合同訓練の指摘事項を振り返ることで、明らかな対応能力の向上を認めた。 ・複数の救急隊がお互いに評価することで、活動要領の標準化、プロトコルの再確認ができた。 ・訓練の企画から進行、訓練想定で作成まで全体を管理する能力が向上した。 |

| No. | 課室 所名 | 目標項目 | 難易度 (ABC) | 目標の内容 | | | | 目標に対する活動(上半期レビュー) | | 目標達成の状況(output・input) | | 成果分析[outcome] | |
|---------|----------|-----------|--------------|---|---|---------|--|--|---|---|--|--|---|
| | | | | 目標指標の内容 | 目標の基準値 | 目標達成時期 | 目標値 | 目標達成のための具体的方法 | 【現状】 | 【ギャップと対策】 | ①達成値・実績値 | ②取組・行動内容 | ③目標達成による成果 |
| | | | | (何を) | (目標設定時の状態・比較実績) | (いつまでに) | (どの水準までどうする・達成後の状態) | (具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など) | 上期(4月～9月)の取組実績(具体的活動・行動) | 下期(10月～3月)に向けた課題と取組の予定(具体的活動・行動) | (目標の達成状況・現在の状態) | (目標達成のために行った取組・行動) | (目標の達成による効果、目標達成できなかった事由) |
| 重点取組⑤ | 警防課(救急) | 応急手当教育の充実 | B | 応急手当講習会の充実 | H29年度実績 児童・生徒に向けた救急講習会の実施 小学校17校中3校 中学校8校中3校 高校7校中7校 | 年度末まで | 児童生徒に向けた救急講習会の実施 小学校全校の半数 中学校高校の全校 | 教育委員会を通じて、各校への積極的な講習受講案内ととも、消防庁舎見学時等の救命体験を新設する。 | ・小学校1校、高校2校で実施済み ・剣道スポーツ少年団34名でジュニアコースを実施した ・庁舎見学で来庁した小学生を対象に、救命体験を実施し、13校482名が体験した ・来庁した小学校15校へ資料を配布し、開催の案内を行った | ・中学校、高校は年末から年度末にかけての申し込みが多いため、適切に対応する ・自衛消防訓練出向等、機会を利用し啓発する ・教育委員会を通じて、次年度の開催案内を全校宛送付する | 小学校17校中1校実施 (他入門コースⅡを2団体実施) 中学校7校中3校実施 高校1校中6校実施 | ・市内全校へ救命講習会の案内を発送した。 ・小学校の消防庁舎見学の際、心肺蘇生法簡易トレーニングキットを使用した救命体験を実施。13校482名の生徒が体験した。 ・庁舎見学引率の先生に資料を配布し、講習会開催の案内を行った。 | ・開催学校数は目標達成とならなかった。 ・案内の時期、手段の検討が必要と思われる。31年3月15日、教育委員会へ協力を依頼。新年度の校長会、教頭会での呼びかけを実施する予定。 ・救命体験は非常に好評であったため、内容をグレードアップさせ継続実施する。 |
| 業務改善取組① | 通信指令室 | 勤務環境の整備 | B | 職員のストレス軽減 | 災害受信の窓口である業務の特殊性から、緊張感と責務を持続しなげればならず、精神的なストレスと疲労感には常に高い状態である。 | 通年 | ①定期健康チェックの実施。 ②休息時間の確実な取得。 ③休日は前年度より取得率の向上(平成29年度8.9日)、ストレスを減らすことで、業務能力の低下を防止する。 | ①指令室独自のストレスチェックシートを作成し、各自が毎月1回指令室長に提出する。 ②休息取得チェックリストを作成し、勤務終了後に毎朝出席職員がチェックする。 ③年次休暇においては毎月月末にチェックを行い、取得日数の少ない職員においては、業務に支障のない程度で取得を促す。 | ①ストレスチェック実施率100% ②休息時間取得率100% ③年次休暇取得日数平均5.6日 | ①継続してストレスチェックを行う ②災害発生時には、事業終了後に交替で休息を取ることにより、今後も休息を取り、疲労感を溜めないようする ③9月末の年次休暇取得日数は妥当なラインであり、年末に向け業務多忙となるが、業務に支障のない範囲で休暇取得できる環境を作る | ①ストレスチェック実施率100% ②休息時間取得率100% ③年次休暇取得日数平均10.3日 | ①毎朝のミーティングで職員の健康チェック及び毎月シートでの報告を実施。 ②チェックシートを確認することにより自分自身の取得状況を再確認し、各自100%取得した。 ③業務に支障のない程度に可能な限り、取得を促した。 | ①②③ 24時間連続勤務の状況下で精神的な負担が大きい業務の中で、体調不良、病欠者は0人である。対策は職員間で好評であり、今後も継続すべきと考える。 |
| 重点取組① | 通信指令室 | 指令業務の充実強化 | A | ①通信指令員の育成 ②防災教育の普及啓発 ③地図検索装置の最新データ更新 ④(南地区)分署統合事業の完遂 | ①通信訓練の実施(前年度実績273回) ②防災講話等への出向(前年度実績31回) ③住宅調査の実施(前年度実績378世帯) ④南分署(仮称)の指令システム確実な移設 | 年度末まで | ①通信訓練 280回 ②各種防災講話出向 36件 ③対象世帯のすべての実施 ④運用開始までのシステム正常稼働 | ①通常の通信訓練のほか、タイム計測を行っているの覚知～出動までの出動訓練を実施。 ②防災意識の啓蒙と、救命率の向上を目指し、各種講話や講習会へ出向する。 ③住民基本台帳を基に住宅調査を実施し、地図検索装置を最新データに更新する。 ④関係各署との入念な打ち合わせと移設完了までのスケジュールを作成、運用開始までに動作操作試験を繰り返し実施する。 | ①179回実施(目標値の64%) ②20回(目標値の56%。いきいきサロン、タウンメッセージ、救命講習会など) ③実施数298(前年度実績の78%) ④契約締結に向けて進行中(10月中) | ①指令業務の合間を見ての訓練であるが順調に実施できている ②順調に防災の普及啓発を実施しており、今後も市の情報発信システムを活用し、1人でも多くの市民に普及啓発をしていきたい ③毎月の調査世帯数を可能な限り残さず実施している成果であり、今後も勤務人員や行事を考慮しつつ継続して調査を進めたい ④移転日に向けスムーズかつミスのない移設をするために、業務管理を徹底、これまで4回打合せに参加しているが、今後も積極的に参加し進捗状況を把握する | ①通信訓練を350回実施、各分署との出動訓練140回実施。 ②いきいきサロン(防災講話2回含む)25回、イベント2回、かまぐらFM出張4回、テレビ、新聞2回実施 ③実施世帯1233実施 ④通信指令システム移設完了(3月22日) | ①災害受付、対応業務の合間に、年間を通じた計画的な訓練を実施。 ②関係機関と連絡を取り合い、かつイベント等での普及活動を実施。今年度からFMラジオを利用した広報活動を実施。 ③勤務時間帯で提出された変更箇所の調査は完了した。 ④移設発注工事業者と協議検討、打ち合わせを実施。 | ①通報時に情報分析と判断において、すばやく判断できるように訓練し、災害現場に連絡できるようになった。さらなるレベルを上げるため継続して訓練を実施していくべきと考えられる。 ②関係機関との連携強化により、昨年以上に実施した。また、FMラジオによる広報活動を今年度より実施した。今後も継続すべきと考えられる。 ③提出された変更箇所だけではなく、新しい住宅街の調査も実施完了し、最新の状態を把握できた。 ④平成31年3月22日から南分署の通信指令システム運用開始 |
| 業務改善取組① | 消防署 | 確実な情報共有 | B | ①「ホウ・レン・ソウ」の徹底 ②災害現場における情報共有と活動方針の徹底 | ①報告・連絡・相談の遂行 ②指揮隊運用計画の助行と確実な情報収集による活動 | 年度末まで | ①担当者内の確実な情報共有による業務対応の迅速化 ②災害現場での対応力向上のための指揮命令系統の明確化及び徹底 | ①交替時における担当者間の確実な引継ぎ(引き継ぎ簿等の活用) ②指揮隊運用訓練の中での指揮隊と各隊、指令室との連携訓練 | ①各係において引継簿等の活用による情報共有が図られ、業務遂行が確実に行われている ・毎日のミーティングにおいて、職員間の情報共有がしっかりと行われている ②下期に指揮隊運用訓練を実施し指揮能力の向上と連携強化を図る | ①下期も毎日のミーティングや交替時の各係の引継ぎで情報共有を図り業務を円滑に進める ②下期に指揮隊運用訓練を実施し指揮能力の向上と連携強化を図る | ①情報共有が図られ、円滑な業務運営が行われた。 ②災害現場に於いて、指揮隊と消防隊等との連携強化により活動能力の向上 | ①毎日の各係の引継ぎとミーティング時の情報共有の徹底 ②第1指揮隊の能力向上を図るため各所属の当直長代理クラスを対象の指揮隊訓練実施 | ①確実な情報共有と円滑な業務の遂行 ②指揮隊能力の向上による安全管理と災害対応能力の向上 |

| No. | 課室 所名 | 目標項目 | 難易度 (ABC) | 目標の内容 | | | | 目標に対する活動(上半期レビュー) | | 目標達成の状況(output・input) | | 成果分析[outcome] | |
|---------------------|----------|------------------------|--------------|---|--|---------|--|---|---|---|--|--|---|
| | | | | 目標指標の内容 | 目標の基準値 | 目標達成時期 | 目標値 | 目標達成のための具体的方法 | 【現状】 | 【ギャップと対策】 | ①達成値・実績値 | ②取組・行動内容 | ③目標達成による成果 |
| | | | | (何を) | (目標設定時の状態・比較実績) | (いつまでに) | (どの水準までどうする・達成後の状態) | (具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など) | 上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動) | 下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動) | (目標の達成状況・ 現在の状態) | (目標達成のために 行った取組・行動) | (目標の達成による効果、 目標達成できなかった事由) |
| 重点 取組 ① | 消防署 | 市民の負託に応える消防 | A | ①各種災害現場に即した訓練 520件 ②安全・確実・迅速な業務の遂行 ③若年職員の知識・技術の向上 | ①各種災害現場に即した訓練 520件 ②事故 3件 災害・訓練時の公務災害 0件 上記以外 1件 ③若年職員の訓練 520件 火災検討会 18件 | 年度末まで | ①過去の現場活動や現場活動後の検証を踏まえた訓練の実施(年間365回) ②事故、ミス、怪我 0件 ③個人としての知識、技術の向上及びチームで活動ができる人材育成 | ①過去の現場活動や現場活動後の検証を踏まえた訓練計画の実施及び検証 ②ヒヤリハットを使った事故防止の徹底と意識改革 毎日の体調チェックと管理による事故の未然防止 ③当直長級による年間を通しての訓練や座学による知識、技術の伝承 | ①各種災害現場に即した訓練 168回 火災検討会 13回 各ブロック毎の訓練 8回(東 2回、南 4回、西 2回) ②事故 0件 災害・訓練時の公務災害 2件 ③若年職員の訓練 168回 | ①各種災害を想定した訓練及びブロック毎の訓練等を繰り返し行う現場活動能力の向上を図る ②下期公務災害、交通事故・違反ゼロを目指し、上期で発生した公務災害の発生原因の検証と対策及び危険因子が多くなる冬季における事故防止対策の強化 ③今年度採用し初任科教育を修了した職員の知識、技術の習練と災害現場でチームとして活動するための訓練 | ①月間訓練計画等訓練 548回 火災検討会 12回実施(H31.3.19 現在) ②災害時の公務災害 3件 ③若年職員教育・指導訓練 548回(H31.3.19 現在) | ①月間訓練計画、各種訓練及び火災検討会等を実施し、各種災害に対する活動等の検証と活動方針の徹底を図った。 ②毎日のミーティング時における事故防止ヒヤリハット、体調チェック。 公務災害発生時の検証及び安全管理の再徹底 ③若年職員指導制度による教育指導 | ①多様な災害への対応力向上 ②現場活動時の安全管理不徹底(資器材運用方法及び冬期間における足元管理) ③若年職員の知識、技術の向上による消防力の底上げ及び向上 |
| 業務 改善 取組 ① | 増田分署 | 迅速かつ正確に意見や情報が伝えられる職場環境 | B | 報告、連絡、相談の徹底と情報共有 | 情報共有の徹底により、効率的に事務処理を行えるようになった結果、ミスのない業務が遂行できている。 | 結年 | 担当係が不在時でも事務が停滞することの無いよう、担当外であっても広く業務を把握する。 | 朝のミーティングで現在進行中の業務の進捗状況を確認する。 主担当以外の係でも責任を持って業務を遂行させる。 | ・毎朝の申し送りでの情報の抜け落ちがないように詳細に伝えることで情報の共有を図った ・結果主担当以外でも係の業務を遂行できている | ・毎朝の詳細な申し送りを継続し、最終的に係が不在でも業務が滞ることがないようにする | 担当外でも迅速な対応に繋がっている。 | 毎朝のミーティングは抜け落ちがないように三日前からの申し送りを振り回り、報告をすることを徹底させた。 | 業務内容の進行状況や連絡、報告の遅れがなくなった。 |
| 重点 取組 ① | 増田分署 | 災害に強い街づくり | A | 消火活動の困難性が高い地域の警防計画の策定 | 重要伝統的建造物群における警防計画未策定 | 上期 | 調査内容に気象状況を加味した警防計画の樹立。 | 警防課及び関係機関と協議し、地域における建物密集程度、消防車両進入の可否、水利状況を早期に調査する。 | ・現地調査等を終了し、警防計画を作成している ・内容について警防課と協議し調整している | ・指揮隊及び本署と協議し、警防計画を完成させたのち速やかに全体に周知する | 重要伝統的建造物群における警防計画を作成した | ・警防課及び関係機関と協議し、該当地域における建物密集程度、消防車両進入の可否、水利状況を調査した | ・重要伝統的建造物群における有効な火災防脚活動の指針を示すことができた ・今後、訓練等において検証を重ね、更に有効な計画に改編していくこと |
| 重点 取組 ② | 増田分署 | 十文字分署との統合に向けた事務書類の統一化 | B | 統合の際の円滑な事務引継 | 両分署で簿冊の管理方法が異なり、書類統一に向けた話し合いを実施したが取り決めまでには至っていない。 | 年度末 | 両分署の担当係長を中心に簿冊の管理方法の現状を把握し、31年度当初から統一した方法で管理できるようにする。 | 増田分署内の必要書類と不必要書類の振り分けを実施する。 新文書管理システムで作成した文書の保存方法の取り決めを実施する。 | ・文書保存年限を両分署間で確認、リストを作成し、書類の振り分けを実施中(進捗状況50%) ・年度内に不要書類を廃棄し、システム上の処理を並行して行う ・両分署間で状況を共有し、統合の際にスムーズに文書移動ができるように書類の統一化を進める | ・簿冊の保存年数をまとめたリストを作成し、それを基に情報を共有しながら不要な書類を廃棄し、システム上の処理も行った。 ・文書の管理方法を決め、予防係にあっては対象物ごとにファイリングした。 | ・引越の際に混乱も起きず、その後の書類の整理もスムーズに入れた。 | | |
| 重点 取組 ③ | 増田分署 | 市民から信頼される消防業務の遂行と人材教育 | A | ①確実な災害対応のため、現場想定訓練の実施 ②確実・迅速な現場対応及び安全管理の徹底 ③若年教育指導及び機関員強化 | ①前年度実績 現場想定訓練 11回 ②前年度実績 公務災害0件 ③前年度実績 ・若年者訓練 204回 ・走行訓練 8回 ・C級機関員資格取得者 3名 ・B級(CAFS付ポンプ車)機関員資格取得者 1名 | 年度末まで | ①現場想定訓練 11回以上 ②公務災害0件の継続 ③若年者訓練 210回 走行訓練 20回 揚水訓練 10回 CAFS付ポンプ車機関員養成 | ①分署内において現場想定訓練を実施する。 ②各種訓練を通じて、災害現場での危険性を考察させる。 ③若手機関員の訓練に重点を置き、車両及び資器材の操作に精通した機関員の養成を図る。 | ①現場想定訓練 8回(目標値の72%) ②公務災害 1件(検討会実施済) ③若年者訓練 118回(目標値の56%) ・走行訓練 32回(目標値の160%) ・揚水訓練 12回(目標値の120%) ・CAFS付ポンプ車機関員A級取得 1名 | ①想定訓練を継続実施し目標を達成する ②公務災害0件は未達成となったが、下期では0件となるようヒヤリハットを実施する ③100回以上の訓練を実施し目標達成するとともに、冬季に向けて若年者の更なるレベルアップを目指し訓練を実施する | ①現場想定訓練 12回(目標値の110%) ②公務災害 1件(検討会実施済) ③若年者訓練 234回(目標値の110%) ・走行訓練 36回(目標値の160%) ・走行訓練においては計画された訓練の他、業務出向時にも機関員を交替するなどして訓練回数を増やし個人の技術向上に努めた。 ・揚水訓練については敷地内消火栓や防火水槽を利用した訓練を実施した。 ・CAFS付ポンプ車機関員1名の養成を行った。今後一層の技術習熟を図ることが必要である。 | ①ブロックにおける訓練を実施したことにより種数隊の活動時、現場での連携が取れるようになった。 ②公務災害0件の目標達成とはならなかったが、毎日のヒヤリハット事例の共有や安全管理マニュアルの徹底を図り再発防止に努めている。 ③若年者の育成は現場活動要領のみではなく事務処理要領等も向上がみられている。 ・走行、揚水訓練は降雪期以前に目標回数がクリアできている。冬期間は水利確保の為に巡遊等で訓練実施回数が減少するが、可能な限り実施することが望ましい。 ・CAFS付ポンプ車機関員1名の養成が必要である。 | |

| No. | 課室 所名 | 目標項目 | 難易度 (ABC) | 目標の内容 | | | | 目標に対する活動(上半期レビュー) | | 目標達成の状況[output・input] | | 成果分析[outcome] | |
|---------|----------|----------------------|--------------|-----------------|---|---------|--|---|--|--|--|---|--|
| | | | | 目標指標の内容 | 目標の基準値 | 目標達成時期 | 目標値 | 目標達成のための具体的方法 | 【現 状】 | 【ギャップと対策】 | ①達成値・実績値 | ②取組・行動内容 | ③目標達成による成果 |
| | | | | (何を) | (目標設定時の状態・比較実績) | (いつまでに) | (どの水準までどうする・達成後の状態) | (具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など) | 上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動) | 下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動) | (目標の達成状況・ 現在の状態) | (目標達成のために 行った取組・行動) | (目標の達成による効果、 目標達成できなかった事由) |
| 業務改善取組① | 平鹿分署 | 情報共有の徹底 | A | 安全、確実な消防業務と災害対応 | ①ミスのない消防業務 ②各種災害・業務への安全運行。 平成29年度 ・公用車事故1件 | 通年 | ①事務処理ミス0件 ②交通事故、公務災害0件 | ①ミスを見逃さない為の意見を言い合える職場づくり。 ・引継ぎ簿への分かりやすく、確実な記載。 ・重要事項は、経緯について詳細に記録し情報を共有。 ・ダブルチェックの徹底 | ①事務処理ミス0件継続 ②交通事故、公務災害0件継続 | ①意見言い合える雰囲気づくりに努め、若い職員から多くの意見を出してもらい全体において共有を図り業務に取り組んだ。 ①各簿冊の記入方法、確認方法の見直しを実施 ・チェック表の見直しを行い、上席者が記入漏れ、間違いがないよう確実に確認する ・各簿冊の記入方法について記入例を示して統一を図る | ①事務処理ミス 0件 ②交通事故 0件 公務災害 0件 | ①意見言い合える雰囲気づくりに努め、若い職員から多くの意見を出してもらい全体において共有を図り業務に取り組んだ。 ・複数の職員で確認すること徹底し処理ミスをなくした。引き継ぎ簿の記載方法、重要事項の引継ぎ方法についてミーティング時に注意喚起した。 ・各簿冊の記入方法について記入例を示して統一を図った。 ②毎朝のミーティング時、交通事故の防止、安全運転、体調管理について注意喚起を行った。 ・分署内における危険因子の洗い出しを行い、逐次改善するようとした。 ・訓練時は中堅職員が中心となり、現場活動時の注意点を指導した。 | ①若手職員も責任を持って業務に当たるようになってきている。誤認感覚も見受けられるときもあるが、上席者がチェック、指導することで少なくなっている。 ②注意喚起を行うこと、出勤先の確認等、基本的事項を確実に行うことで、安全管理の重要性について再認識した。 |
| 重点取組① | 平鹿分署 | 市民に信頼される消防業務の遂行と職員育成 | A | 職員の知識、技能の向上 | ①若手機関員のレベルアップ ②実災害に即した訓練の実施 平成29年度 走行訓練42回 揚水訓練12回 救急訓練62回 | 年度末まで | ①走行訓練、走行揚水訓練を月5回以上 ②救急訓練を月4回以上 | ・走行訓練、揚水訓練を昨年以上に実施し、中堅職員が中心となって指導者することで、お互いのレベルアップを図る。 ・ポンプ車、タンク車による連携訓練と南地区合同演習訓練を実施して消火技術の向上を図る。 ・災害出動に於いて随時検討会を実施する。 ・救急訓練では救命士が中心となって各種手技、誤搬送防止のためのチェックを確実に実施するよう訓練を重ねる。 | ①走行訓練、走行揚水訓練を計56回、月9回のペースで実施 ・南ブロックの合同訓練4回実施 ・毎災害出動後の検討会を行う ②救急訓練を計42回、月7回のペースで実施 | ①新規機関員認定者の3名に対し、消防団合同訓練等を含め重点的に機関運用させ、車両特性について理解できるよう訓練を重ねた。 ・全ての火災出動について検討会を行った。 ・南ブロックの合同訓練4回実施。 ・種内進入指導訓練2回実施、教養訓練にも多く取り入れた。 ②訓練を通して隊員は救命士が何を求めているのか、また救命士(隊長)は隊員が何の指示を求めているのか、相互の意思相通を図ることで、スムーズな活動ができた。 ・勤務交代後に車内において5分間程度の教養を実施して安全確認の統一を図った。 | ①全機関員認定者について、スキルアップすることができた。 ・新規機関員認定者は、どうしても実現場の経験が少なく不安に思っている部分があるが、実現場を見つめた訓練を増やし、スキルアップを目指していきたい。 ②訓練を通して隊員は救命士が何を求めているのか、また救命士(隊長)は隊員が何の指示を求めているのか、相互の意思相通を図ることで、スムーズな活動ができた。 ・誤搬送を防止し、出動中の無事故を達成することができた。 | | |
| 重点取組② | 平鹿分署 | 災害に強いまちづくりを目指す | A | 法令違反防火対象物への指導強化 | ①予防検査業務の計画的実施。 平成29年度 予防検査等30回 重大違反対象物8対象物 | 年度末まで | ・重大違反について2対象物以上の改善。 ・査察計画に伴う立入検査の実施。 ・重大違反のある防火対象物への立入検査を行い、違反処理を含めた改善指導を年間を通して継続的に行う。 | ・立入検査対象物32件実施 ・重大違反防火対象物8件のうち、改善1件、10月中の是正確認1件。改善予定1件 | 引き続き、該当対象物との連絡を密にし、改善指導を継続的にを行い、早期の改善を目指す | ・立入検査対象物64件実施 ・重大違反防火対象物8件のうち、改善4件、改修中3件 (内警告書交付1件) 未改善(進行中)1件 | ・検査対象対象物数はほぼクリアできた。 ・重大違反対象物に改善指導を継続的に行ったことで、4対象物が改善され、3対象物が改善に向けて改修進行中である。 ・1対象物については1月末に警告書を交付し、改修について着工届が提出された。 ・該当全対象物との定期的な連絡をとり、改善指導を継続的に行った。 ・重大違反対象物の立検指導を重点的に行ったことにより、各種手続き、事務処理に時間を必要とした。 | | |

| No. | 課室 所名 | 目標項目 | 難易度 (ABC) | 目標の内容 | | | | 目標に対する活動(上半期レビュー) | | 目標達成の状況(output・input) | | 成果分析[outcome] | |
|---------|----------|------------------|--------------|---|---|---------|---|---|--|---|--|--|--|
| | | | | 目標指標の内容 | 目標の基準値 | 目標達成時期 | 目標値 | 目標達成のための具体的方法 | 【現状】 | 【ギャップと対策】 | ①達成値・実績値 | ②取組・行動内容 | ③目標達成による成果 |
| | | | | (何を) | (目標設定時の状態・比較実績) | (いつまでに) | (どの水準までどうする・達成後の状態) | (具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など) | 上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動) | 下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動) | (目標の達成状況・ 現在の状態) | (目標達成のために 行った取組・行動) | (目標の達成による効果、 目標達成できなかった事由) |
| 業務改善取組① | 雄物川分署 | 情報共有 | B | ①職員全員で「ホウ・レン・ソウ」の徹底を図る。 ②各種書類の管理、処理、保管整理の徹底を図る。 ③災害現場における情報共有と活動方針の徹底を図る。 | ①報告・連絡・相談の欠落や遅延。 ②文書管理システム活用の理解不足。 ③情報の錯綜による活動方針の遅延。 | 年度末まで | ①担当者のみに任せず、職員全員で何事に対してもスムーズに対処できる体制。 ②対応能力の向上と徹底した書類管理。 ③災害現場での対応力向上のための指揮命令系統の明確化及び徹底。 | ①「ホウ・レン・ソウ」を徹底し、係に拘らず職員全員が同じ認識を持ち業務にあたる。 ②文書管理システムを活用した書類管理と、若年者教育を通し全職員のスキルアップを図る。 ③災害現場でのフィードバックや訓練により、向上していると思われる。出勤時のルート間違いを起こさないよう更なる訓練が必要 | ①西ブロック副署長を含む上司への「ホウ・レン・ソウ」を徹底し、当直長間、各係間において申し送り等はスムーズかつ確実に実施されている ②文書管理システムの活用については、起案・庶務報告・電子供覧の一部業務に留まっている ③災害出勤後のフィードバックや訓練により、向上していると思われる。出勤時のルート間違いを起こさないよう更なる訓練が必要 | ①職員間、関係機関との連絡を密にし、ミスや事故の無いよう継続して実施する ②業務内容を職員全員が理解し、有効活用できるよう継続していく ③訓練を継続する | ①職員全員で「ホウ・レン・ソウ」を徹底し、申し送り等はスムーズかつ確実に実施し、職員全員が同じ認識を持ち業務にあたった。 ②文書管理システムを活用した書類管理。 ③災害現場や訓練を通し隊長、機関員、隊員の意思疎通や共通認識の質の向上。 | ①「ホウ・レン・ソウ」を徹底し、申し送り等はスムーズかつ確実に実施し、職員全員が同じ認識を持ち業務にあたった。 ②業務内容を職員全員が理解し、有効活用できるよう共有を図った。 ③災害出勤後及び訓練後のフィードバックにて、意思疎通や共通認識の質の向上に努めた。 | ①スムーズかつ確実な業務遂行のため継続して実施。 ②個々のレベルで文書管理システム活用の理解を深めることができた。来年度の分署統合に向け書類整理の継続が必要。 ③災害現場における事故の減少及び、意思疎通や共通認識の質の向上。 |
| 重点取組① | 雄物川分署 | 市民の負担に応える消防 | A | ①業務、災害時における事故ゼロ活動。 ②機関員の養成。 ③若年職員の知識・技術の向上。 | H29年度実績 ①無事故無違反継続中。 ②A級機関員2名、C級機関員2名認定。中型車の限定解除1名取得。 ③若年職員の訓練235回実施 | 年度末まで | ①災害・訓練時等の事故及び怪我0件を継続する。 ②走行訓練30回以上、揚水訓練20回以上の実施。 ③計画的に訓練を実施し、車両の特性(CAFS付ポンプ車等)、緊急走行技術の習得、現場対応のスキルアップを図る。 ④職員全員で若年職員の総合的教育指導を実施することにより、全職員の知識・技術の向上を図る。火災検討会、訓練の実施及び検証、過去の事例等を活用し知識、技術の伝承を図る。 | ①ヒヤリハット、体調チェック 毎当務実施 ②車両運用のスキルアップ 走行訓練 15回 揚水訓練 5回 西ブロック合同訓練 1回 ③若年職員教育 128回 火災検討会 12回 | ①事故防止のため継続して実施する ②今後とも訓練を重ね、技術向上を図るとともに機関員を養成する・西ブロック合同訓練も計画中 ③災害現場対応のみならず、接遇・向上業務時の対応等もレベルアップ ④若年職員教育 215回 火災検討会 28回 | ①ヒヤリハット、体調チェック 毎当務実施 ②車両運用のスキルアップ 走行訓練 37回 揚水訓練 19回 西ブロック合同訓練 4回 ③若年職員教育 215回 火災検討会 28回 | ①毎日のミーティング時に継続して実施。 ②訓練を継続し機関員認定資格A級(CAFS)5名、C級1名を養成。大型自動車免許を2名養成。 ③職員全員で若年職員の総合的教育指導を実施し、全職員の知識・技術の向上を図った。火災検討会、訓練の実施及び検証、過去の事例等を活用し知識、技術の伝承を継続。 ④勤務体制により訓練回数は不足したものの机上訓練、冬期巡邏、住宅調査を活用して機関運用スキルアップや地利把握を図れた。 | ①無事故無違反の達成。今後も継続して実施。 ②勤務体制により訓練回数は不足したものの机上訓練、冬期巡邏、住宅調査を活用して機関運用スキルアップや地利把握を図れた。 ③若年職員のみならず、職員全員が安全管理に対する意識の向上が認められた。 | |
| 業務改善取組① | 大森大雄分署 | 情報共有の徹底と事務処理遅延防止 | B | ①「報告・連絡・相談」の徹底。 ②全職員が各層届出等の事務処理要領を身につける。 | ①業務の現状を理解できない時がある ②担当した物以外が把握していないケースが見られる。 | 通年 | ①番員で情報共有の漏れを無くし、業務の流れを理解する。 ②全職員が事務処理を理解する。 | ①1日2回のミーティングを実施し、業務を振り返る。 ②事務処理マニュアルの再確認とフローチャートの作成 | ①発信されているもの受ける側の理解度が足りない ②担当以外の職員も積極的に事務を行っている | ①発信する側、受ける側双方とも次の業務を予測した対応を助行する ②担当した職員に全てを委ねることはせず、必ず上司が見届ける | ①② 担当以外の職員も、各業務の内容を良く理解すると共に率先して協力し、業務を遂行させている。 | ①② 担当業務引継ぎ以外に署内の全体ミーティング及びネットワーク環境システムを利用した情報共有を毎日徹底させた。 | ①② 担当不在における来客者への対応や上司への事務報告がスムーズに行えるようになり、事務取扱の効率が上がった。 |
| 重点取組① | 大森大雄分署 | 確実な業務遂行と人材育成 | A | ①災害対応能力の向上 ②機関員の養成 ③若年職員の知識・技術の向上 | ①各種災害現場に即した訓練の実施。 ②機関員を4名養成。 ③若年職員の訓練継続。 ・平成29年度実績 災害対応訓練(若年者訓練含む)220回 救急処置訓練80回 | 年度末まで | ①過去の現場活動や現場活動後の検証を踏まえた訓練の実施。 ②B級2名、C級2名を養成し、署内の勤務バランスを均等化する。 ③個人としての知識・技術の向上及びチームで活躍ができる人材育成。(対象者3名、若年者教育訓練200回以上実施) | ①訓練又は現場活動後に各隊員から発言を求め、問題点や課題をプッシュアップし、各自のスキルアップを図る。 ②大型免許取得及び、該当機関員に相当する教育、実技訓練を実施する。 ③全職員で若年職員の総合的教育指導の徹底を図る。 | ①災害対応訓練 92回実施 ②機関員養成 B級1名 C級2名 ③若年者教育訓練 A 48回実施 B 36回実施 C 42回実施 | ①実施回数については順調であるが、災害活動中の事故防止を取り入れるなど、変化をもたせた訓練を行い応用力のある職員を育成する ②1名が大型免許取得し、普通走行から緊急走行へとステップアップ、更に現場対応のスキルアップを図り機関員としての自覚を持たせる・他1名は間もなく取得見込みで他1名は下半期の課題である ③若年職員は勿論、職員全員の知識・技術の向上を図るために訓練を重ねる | ①災害対応訓練197回実施 ②機関員養成 B級1名・C級2名 ③若年者教育訓練 A84回実施 B83回実施 C77回実施 | ①訓練計画で目標を定め、現場対応を目的としたプライム訓練を実施し現場での柔軟性と応用力の強化を図った。 ②災害事例を参考にし、ポンプ車運用の座学や実技訓練を通して疑似体験をさせた。 ③若年職員教育指導担当者を筆頭に署員一丸となって若年職員の総合的教育指導を通じ中堅職員等も知識技術の向上を図る。更に若年職員に日常生活のメンタル面も指導した。 | ①事案完了後の署内検討会においても、建設的な意見が多く見られるようになり、士気の高揚が感じられた。 ②B級機関員1名(目標2名)C級機関員2名の認定、大型免許1名の取得により更に幅広い訓練及び災害時の車両運用が可能となった。 ③若年職員に幅広い指導を行うことにより全職員の技術向上や安全管理意識の向上が図られた。 |
| 業務改善取組① | 十文字分署 | 車両整備および資器材管理の徹底 | B | ①車両構造を理解し、異常に対処できる人材の育成。 ②資器材の員数を把握し、整理整頓された職場。 | ①職員平均年齢の低年齢化に伴い、車両運用に詳しい人材が不足している。 ②消耗品が補充されていなかったり、在庫が多すぎる資器材がある。 | 通年 | ①車両の異常を早期に発見し、現場活動でのトラブルや事故を無くす。 ②適正在庫で維持管理し、整理整頓された職場。 | ①車両点検要領の見直しと、ポンプ機能掌握に特化した訓練の実施。 ②点検簿による記入漏れを無くし、CAFS性能を掌握 ③資器材使用後、点検簿に基づき在庫管理を徹底し、引き継ぎを確実にしている | ①凍結等の冬季特有のトラブル防止、車両整備要領の教育を行う ②分署統合を視野に、資器材の整理整頓を継続する | ①若年機関員の現場経験は少ないが走行に問題はなく、訓練時の応用ポンプ運用も安全且つ的確に行えている。 ②分署統合に備えた資器材の員数確認および整理整頓は実施された。 | ①トラブル対応も踏まえた訓練を重ね、ポンプ知識・技術の教育を行った。 ②分署統合に備え、年度計画にて資器材の員数管理と整理整頓を実施した。 | ①機関運用にあたることで、平時の地利に関してもしっかりと注意が向き、業務意欲が高まった。 ②整理整頓により在庫把握が円滑となり、補充も怠りなく管理できた。 | |

| No. | 課室 所名 | 目標項目 | 難易度 (ABC) | 目標の内容 | | | | 目標に対する活動(上半期レビュー) | | 目標達成の状況(output・input) | | 成果分析[outcome] | |
|---------|----------|-------------|--------------|---|--|---------|--|---|---|--|--|--|--|
| | | | | 目標指標の内容 | 目標の基準値 | 目標達成時期 | 目標値 | 目標達成のための具体的方法 | 【現状】 | 【ギャップと対策】 | ①達成値・実績値 | ②取組・行動内容 | ③目標達成による成果 |
| | | | | (何を) | (目標設定時の状態・比較実績) | (いつまでに) | (どの水準までどうする・達成後の状態) | (具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など) | 上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動) | 下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動) | (目標の達成状況・現在の状態) | (目標達成のために 行った取組・行動) | (目標の達成による効果、 目標達成できなかった事由) |
| 重点取組① | 十文字分署 | 市民に信頼される消防 | A | ①安全、確実な消防業務と災害対応。 ②若年者職員の知識、技能の向上。 ③分署統合に向けた引継ぎ準備を整える。 | ①若年者教育訓練の実施 平成29年度の実績。 ・B級1名C級機関員資格取得者2名。 ・若年者訓練実施回数235回。 ③ ・統合分署で簿冊の管理方法が異なる。 ・備品外庁倉庫品の混在。 | 年度末まで | ① ・査察計画の完全実施。 ・事故、ミス、怪我0件。 ② ・B級機関員1名、C級機関員1名の養成。 ・若年者教育訓練を300回以上実施し、現場活動要員の育成。 ③ ・両分署の担当係長を中心に、簿冊の管理方法の現状を把握し、31年度当初から統一した方法で管理できるようにする。 ・備品の確認と整理。 | ① ・不備事項のある防火対象物を中心に立入検査をし改善を図る。 ・毎日ヒヤリハットを実施し、免許証、体調のチェック及び危険予知訓練を実施する。 ② ・計画的に訓練を実施し、緊急走行技術の習得を図り取得を目指す。 ・若年者職員を中心に実災害に即した訓練を計画的に実施する。 ・事務処理、検査要領の座学の実施。 ・現場においての消防用設備検査、自衛消防訓練指導。 ③ ・統一に向けた話合いの場を設ける。 ・備品の確認と整理、不要品の廃棄。 | 【現状】 上期(4月～9月)の取組実績(具体的活動・行動) ① ・年度計画61対象物に対し、34対象物立入検査実施。(年度目標の56%) ・重大違反対象物15対象物のうち3件解消、他4対象物へ再検査実施し是正指導を図る ・毎日ヒヤリハット、免許証、体調チェックを実施し、公的事故・怪我0件 ② ・B級1名、C級1名が機関員養成講習受講済 ・走行訓練17回 ・救急車緊急走行時のヒヤリハットは、ドライブレコーダーにて検証し分署内周知 ・若年者の他分署補充勤務も多く、若年者教育訓練116回(目標値の39%) ③ ・文書保存年限を両分署間で確認、廃棄書類の分別中(進捗率30%) ・備品リストの確認実施中。備品外不燃物の廃棄1回(進捗率30%) | 【ギャップと対策】 下期(10月～3月)に向けた課題と取組の予定(具体的活動・行動) ① ・違反対象物に対し、改善への進捗状況を定期確認し是正を図る ・危険予知の個人スキル向上と複数での安全管理を行い、事故、ミス、怪我ゼロを目指す ② ・機関員養成については、目標達成に向け上期取組状況を継続する ・冬季に、安全に活動できる能力を養う訓練を実施する ③ ・年度内に不要書類を廃棄 ・両分署間で情報共有を密にし、年度内進捗率80%を目標に統合準備を促進させる | ①達成値・実績値 (目標の達成状況・現在の状態) ②取組・行動内容 (目標達成のために 行った取組・行動) | ③目標達成による成果 (目標の達成による効果、 目標達成できなかった事由) | |
| 業務改善取組① | 山内分署 | 窓口業務のスムーズ化 | B | ①「ホウ・レン・ソウ」の徹底 ②書類受付や相談ごとに 対し、スムーズに対処出来る体制 | ①ミスのない業務遂行 ②担当者の不在による 処理遅延の解消 | 通年 | ①署員全員での情報共有による迅速な業務対応 ②共通な認識のもと申し送りを徹底すると共に接客時間を短縮し不快感を与えないような対応をする | ①署内ミーティングの際の確実な情報伝達 ②職員全員が共通認識を持ち届出書類等の周知判断と事前の確認の徹底、各種届出等のフローチャートを作成し、業務の効率化を図る | ①各係及び全体の申し送り、ミーティング等で情報共有を徹底し、迅速な業務対応ができる準備が整いつつある ②書類等の精査、接客も若手職員が対応するときは上司が補佐し、スムーズな対応に繋がっている | ①申し送りの徹底、引き継ぎ漏れ、ノート記載漏れの根絶を行い、ミスのない業務遂行につなげていく ②担当係長等が不在でも若手職員がスムーズな処理ができるよう、教養訓練でも書類等の処理の流れの教育を継続し行っていくとともに、全職員が専門的知識の取入れを積極的に行っていく | ①署員全員が申し送りやミーティングを通じて情報共有することができた。 ②接客時間の短縮は、2名以上で書類等を精査しスムーズに図られた。 電話対応については、用件をメモし復唱することでミスのない対応ができた。 | ①申し送りの徹底と引き継ぎノートの記載漏れをなくした。 ②相談に来た人などに若手職員が対応するときは、先輩職員がフォローをし事務処理に努めた。若年者の教育は届け出義務の理解性の座学を行った。 | 全職員で情報共有徹底や届出義務等への理解を深め、スムーズな窓口対応と業務の効率化につなげた。 |
| 重点取組① | 山内分署 | 市民の負担に応える消防 | A | ①安全・確実・迅速な業務遂行 ②多様な災害に対応できる職員の育成 ③全職員の知識・技術の向上 ④機関員資格取得に向けた訓練の実施 | 平成29年度実績 ①交通事故・違反件数0件 ② ・走行訓練実施(駐車場内での訓練含む)回数42回 ・揚水訓練実施回数9回 ・救急日常訓練回数76回 ・若年者教育訓練103回実施(救急処置訓練除く) ③消防学校入校、研修会受講後の内容伝達実施 ④A級機関員認定者1名取得 | 年度末まで | ①交通事故・違反件数0件の継続 ② ・走行訓練回数50回 ・揚水訓練回数10回 ・救急活動訓練回数100回 ・若年者教育訓練回数110回 ③署員の知識・技術・資質の向上。 ④ ・A級資格取得の為、機手等の協力を得て定期的にタンク車の走行、揚水訓練を実施 | ①ヒヤリハットや過去の事故事例を基に事故防止の徹底 ② ・基礎訓練・総合訓練の訓練計画の実施 ・若年者の経験値に即した訓練実施 ③講習会・研修会への積極的な参加 ④ ・A級資格取得の為、機手等の協力を得て定期的にタンク車の走行、揚水訓練を実施 | ①職員健康状態の把握、ヒヤリハット事例、また過去にあった事故事例などを挙げ検討会を毎日実施している(現在無事故継続中) ② ・走行訓練回数54回(目標値の108%) ・揚水訓練回数10回(目標値の100%) ・救急活動訓練回数41回(目標値の41%) ・若年者教育訓練回数52回(目標値の47%) ③書で行われる講習、訓練以外にも個人的に様々な講習や資格を入手するための講習に参加している ④ ・A級に関しては、機関員養成講習も終了し、現在結果待ちの状態である。 ・A級に関しては定期的に本署の協力を得ながら、訓練を実施している | ①安全・確実・迅速な業務遂行に向け継続してヒヤリハット、訓練を行っている ② ・訓練回数は概ね達成 ・回数だけではなく、訓練内容の充実を図る ③引き続きスキルアップを目指すように訓練等を重ねていく ④ ・運行技術向上のため資格取得後のスキルアップが大切なことから、取得後も訓練を継続し現場対応力の習熟を図る ・A級機関員は、本署の協力得て実施できている状況であるが、養成に向け引き続き実施していく | ① ・交通事故・違反件数0件 ② ・走行訓練実施(駐車場内での訓練含む)回数85回(目標値の170%) ・揚水訓練実施回数22回(目標値の220%) ・救急日常訓練回数100回(目標値の100%)3月15日現在 ・若年者教育訓練100回実施(目標値の90%)3月15日現在 ③ ・玉掛け技能技術の取得 ・予防技術検定受験(試験日3月17日) ・その他各種講習会等への参加 ④ ・A級機関員認定者1名 ・C級機関員認定者1名 | ① ・無事故無違反を達成したが、これからも継続する。 ② 各種訓練による職員全体の知識・技能の向上と若年者の応用力向上。 ③ 個人がそれぞれに様々な講習会、資格を取得しその後、取得してきたことを分署員に伝える講習を行い全員のスキルアップが図れた。 ④ 機関員認定者の増加により、乗車制に幅をもたせることができ、部隊活動の充実につながった。 | |